

国際バカロレアを中心としたグローバル人材育成を考える有識者会議
中間取りまとめ参考資料集

1. 国際バカロレアの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - ・国際バカロレアの推進（概要）
 - ・国際バカロレアについて
 - ・国際バカロレアの認定校一覧
 - ・国際バカロレアの認定校の推移
 - ・IBの学習者像
 - ・DPのカリキュラム

2. 国際バカロレア導入に関する教育委員会の主な認定・検討状況・・・・ 10

3. IBを活用した大学入試について・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - ・国際バカロレアを活用した大学入試一覧
 - ・大学入学者選抜実施要項（抜粋）

4. 国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの導入を促進するための教育課程の特例措置について・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

5. 国際バカロレア認定プロセスにおける必要コストについて・・・・・・ 36

6. 国際バカロレア教員の養成について・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
 - ・IB認定校の教員等に関する要件について
 - ・国際バカロレア教員養成課程を設置している大学等について
 - ・特別免許状の授与に係る教育職員検定等に関する指針について
 - ・特別免許状等の活用に関する事例集

7. 国内における国際バカロレアの推進体制について・・・・・・・・ 56
 - ・関係機関一覧
 - ・国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会設置要綱
 - ・国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会参加校

8. 文部科学省におけるグローバル人材育成施策等について・・・・・・ 62
 - ・文部科学省におけるグローバル人材育成の取組例
 - ・スーパーグローバル大学事業の概要

- ・スーパーグローバルハイスクール事業の概要
- ・スーパーサイエンスハイスクール事業の概要

9. 企業を取り巻く環境変化と産業界の求める人材像・・・・・・・・・・・・・・ 69

○関連文書

- ・ [第3期教育振興基本計画の策定に向けた基本的な考え方](#)
- ・ [幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）【概要】](#)
- ・ [高大接続システム改革会議「最終報告」【概要】](#)

国際バカロレアの推進

国際バカロレア(IB)について

- ・国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラム。**特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業**により、**グローバル化に対応した素養・能力を育成**。
世界140以上の国・地域、4,839校で実施(平成29年5月現在)。
- ・高校レベルのディプロマプログラム(DP)は、**国際的に通用する大学入学資格(IB資格)**が取得可能であり、**世界の大学入学者選抜で広く活用**。



「日本再興戦略-JAPANisBACK-」(平成25年6月閣議決定) 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2016改訂版)

国際バカロレア認定校等を
2018年までに200校に

2020年までに国際バカロレア認定校等を
200校以上に

※平成29年5月現在 (計103校)
PYP:認定校22校 候補校等17校
MYP:認定校13校 候補校等7校
DP :認定校32校 候補校等12校

導入の意義

①**グローバル人材の育成**
課題発見・解決能力、
コミュニケーション能力等

②**国際的通用性**
国内外への進路の多様化

③**初等中等教育の質の向上**
大学の国際化・活性化

文部科学省の主な取組

IBを日本の学校が導入しやすくするための取組

- ・「**日本語DP**」(平成29年度予算額74百万円(平成28年度予算額89百万円))
DPの一部科目を、日本語でも実施可能とするプログラム。国際バカロレア機構との協力の下、平成28年度から日本語DP試験を実施。
- ※日本語DP対象科目:歴史、地理、経済、物理、化学、生物、数学、数学スタディーズ、音楽、美術、Theory of Knowledge、Extended Essay、Creativity/Action/Service

IBに対応可能な教員を確保するための取組

- ・外国人に対する特別免許状の授与促進等
- ・IB認定に必要なワークショップ受講に係る支援

DPと学習指導要領の双方を無理なく履修可能とするための取組

- ・DPの導入を促進するための教育課程の特例措置

IB推進の基盤形成のための取組

- ・大学入学者選抜におけるIBの活用促進
- ・IB認定のための手引きの作成・普及
- ・国際バカロレア・デュアルラゲージ・ディプロマ連絡協議会の設置・運営
IBに関心を有する高校等の連携・情報共有の場
※平成29年4月現在、72校・機関が構成員として、26教育委員会がオブザーバーとして参加。

国際バカロレアについて

平成29年5月
文部科学省
大臣官房国際課

1. 国際バカロレア（IB）について

国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が実施する国際的な教育プログラム。

同機構は、1968年、インターナショナルスクールの卒業生に、国際的に認められる大学入学資格（国際バカロレア資格）を与え、大学進学へのルートを確保するとともに、学生の柔軟な知性の育成と国際理解教育の促進に資することを目的として発足。

認定校に対する共通カリキュラムの作成や、国際バカロレア試験、国際バカロレア資格の授与等を実施。

2. IBのプログラムについて

グローバル化に対応できるスキルを身に付けた人材を育成するため、生徒の年齢に応じて、以下の教育プログラムを提供。

平成29年5月1日現在、世界140以上の国・地域、4,839校において実施。

(1)プライマリー・イヤーズ・プログラム(PYP)【1,511校(国内:22校)】

3歳～12歳を対象として、精神と身体の両方を発達させることを重視したプログラム。どのような言語でも提供可能。

(2)ミドル・イヤーズ・プログラム(MYP)【1,399校(国内:13校)】

11歳～16歳を対象として、青少年に、これまでの学習と社会のつながりを学ばせるプログラム。どのような言語でも提供可能。

(3)ディプロマ・プログラム(DP)【3,202校(国内:32校)】

16歳～19歳を対象としたプログラムであり、所定のカリキュラムを2年間履修し、最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格（国際バカロレア資格）が取得可能。原則として、英語、フランス語又はスペイン語で実施。

(4)キャリア関連プログラム(CP)【136校(国内:-校)】

16～19歳を対象として生涯のキャリア形成に役立つスキルの習得を重視したキャリア教育・職業教育に関連したプログラム。一部科目は、英語、フランス語又はスペイン語で実施。

3. 我が国における取組等

(1)我が国では昭和54年より、大学入学資格に関し、学校教育法に基づき、国際バカロレア資格を有する者で18歳に達した者を、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として指定。

(2)平成25年度からは、国際バカロレア機構との協力の下、DPの科目の一部※を日本語でも実施可能とする「日本語DP」の開発・導入に着手。

※日本語で実施可能な科目は、以下の通り。

経済、地理、歴史、生物、化学、物理、数学、数学スタディーズ、音楽、美術、
知の理論(TOK)、課題論文(EE)、創造性・活動・奉仕(CAS)

(参考) 日本語DPによるIB校の認定等に関するスケジュール(最も早いケース)

- ・平成27年 2月 IBから、最初の日本語DPによるIB校認定(同年4月に1年生入学)
- ・平成27年 4月 一部の認定校で、2年生より日本語DP課程開始
- ・平成28年11月 同校で、3年生が国際バカロレア試験を受験(平成29年3月卒業)

※ただし、地理、数学スタディーズ、音楽、美術については、平成29年4月より2年生で日本語DP課程として履修が可能となっており、平成30年11月に3年生で国際バカロレア試験において日本語により受験可能となる予定。

(3)平成25年5月、東京学芸大学を中心に、関心を有する高等学校等により、国際バカロレア、特に日本語DPの導入等に向けた情報共有等のための「国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会」※が設立。

※平成29年5月現在、74校・機関が構成員として、26の教育委員会がオブザーバーとして参加。

(4)国際バカロレア日本アドバイザー委員会※において、日本におけるIBの導入拡大に向けた課題と対応方策について検討を行い、平成26年4月、そのための提言(報告書)を取りまとめ。

※高校、大学、産業界の有識者や関係者等で構成。

(5)現在、文部科学省において、IBの導入拡大に向け、以下の取組を推進。

- ・必要な教員の確保に向けた取組(外国人に対する特別免許状授与の促進等)
- ・DPの導入を促進するための教育課程の特例措置の新設
- ・「国際バカロレア認定のための手引き」の作成・普及
- ・国内の大学入試におけるIBの活用促進
- ・IBに関する情報提供・発信
- ・全国で無料により参加可能なワークショップ※を実施 等

※無料になるワークショップと参加者の条件あり。

4. 国際バカロレアの推進に関する提言等(抜粋)

(1)日本再興戦略

○「日本再興戦略 -JAPAN is BACK-」

(平成25年6月14日 閣議決定)

「一部日本語による国際バカロレアの教育プログラムの開発・導入等を通じ、国際バカロレア認定校等の大幅な増加を目指す(2018年までに200校)。」

(2)まち・ひと・しごと創生総合戦略

○「まち・ひと・しごと創生基本方針 2015」

(平成27年6月30日 閣議決定)

「国際的に通用する大学入学資格が取得可能な教育プログラム(国際バカロレア・ディプロマ・プログラム)については、科目の一部を日本語で実施しても認定可能となるプログラムの開発に引き続き取り組む。」

○「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2016改訂版)

(平成28年12月22日閣議決定)

「国際的に通用する大学入学資格が取得可能な教育プログラム(国際バカロレア)の普及拡大を図り、2020年までに国際バカロレア認定校等を200校以上に増やす(2014年の74校から2016年10月現在で101校に増加)。」

(3)教育再生実行会議

○第三次提言「これからの大学教育等の在り方について」 (平成25年5月28日)

「国は、国際バカロレア認定校について、一部日本語によるディプロマ・プログラムの開発・導入を進め、大幅な増加(16校→200校)を図る。」

○第四次提言「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」 (平成25年10月31日)

「大学は、入学者選抜において国際バカロレア資格及びその成績の積極的な活用を図る。国は、そのために必要な支援を行うとともに、各大学の判断による活用を促進する。」

○第七次提言「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について」 (平成27年5月14日)

「国際バカロレア認定校を大幅に増加させる。」

(4)日本経済団体連合会

○「世界を舞台に活躍できる人づくりのために」

—グローバル人材の育成に向けたフォローアップ提言— (平成25年6月13日)

「語学力のみでなく、コミュニケーション能力や異文化を受容する力、論理的思考力、課題発見力などが身に着くIBディプロマ課程(16歳～19歳対象)は、グローバル人材を育成する上で有効な手段の一つである。」

「ディプロマ取得者に対する社会における適切な評価も重要であり、大学入試における活用や、企業も採用時や人材活用において適切に評価することなどが重要である。」

「我が国においても、入試の際、TOEFLやTOEICなどの英語能力の4技能を測定できる外部試験を活用することや、入試においてIB資格を活用する大学を拡大することなども検討すべきである。」

○「次代を担う人材育成に向けて求められる教育改革」 (平成26年4月15日)

「グローバル化に対応するためには外国語能力とともに、課題を発見し解決する能力や論理的思考力、コミュニケーション能力、さらに日本の近現代史に関する知識を含む幅広い教養を育む必要がある。政府も、英語力に加え、問題解決能力や社会課題に関する深い関心と教養を身につけたリーダー人材を育成する「スーパーグローバル・ハイスクール」の認定(2014年度56校)や、国際バカロレア(IB)課程教育を行うIB認定校の拡大(2018年度までに200校へ)など、グローバル人材育成のため、教育機関の創意工夫や特色を活かした教育を推進する方針を打ち出している。こうした取り組みを更に拡大するとともに、横展開させる必要がある。IBを教授できる人材の育成・確保が喫緊の課題であり、教員養成大学等において迅速に取り組むことが求められる。」

○「今後の教育改革に関する基本的考え方」

—第3期教育振興基本計画の策定に向けて— (平成28年4月19日)

「グローバル人材に求められる素質や能力を育む上で、国際バカロレア(IB)教育は有効であり、その普及に向けた政府目標を達成すべきである。具体的には、①IB課程を教授できる教員の確保・養成(教員養成大学におけるIB教授コースの新設・拡大)、②わが国の大学入試におけるIBディプロマ資格の活用促進、③IB課程と学習指導要領の要件の双方を無理なく取得するための制度の新設が必要である。また家計が少ない経済負担で子弟にIB教育を受けさせられるよう、国公立高校においてIB教育を普及させることも重要である。IB教育の普及は、国内で働く外国人人材の子弟の教育環境の整備にも繋がる。」

(5)国立大学協会

○国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン 工程表 (平成27年9月14日)

入試改革の一環として、「推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試等の拡大(入学定員の30%を目標)」を行うとしている。

(6) 日米文化教育交流会議(CULCON)

○日米文化教育交流会議(CULCON)教育タスクフォース報告書 (平成25年6月13日)

「国際バカロレア資格を取得可能なプログラムを拡充する。」

5. 国際バカロレアの推進関連リンク

●文部科学省

国際バカロレア普及拡大広報ページ

<https://www.facebook.com/mextib>

●国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマ連絡協議会(参加登録先を含む。)

<http://lc-ibdljp/>

●国際バカロレア機構

<http://www.ibo.org/>(英語)

<http://www.ibo.org/ibap/schoolservices/ibjapangateway.cfm>(日本語)

国際バカロレアの認定校

(平成29年5月1日現在)

全45校(うち PYP実施校 22校 MYP実施校 13校 DP実施校 32校)

1校で複数のプログラムを実施している学校があるため、プログラム毎の校数の合計は全体の校数と一致しない

	学校名	所在地	PYP	MYP	DP
1	※市立札幌開成中等教育学校	北海道		○	
2	※仙台育英学園高等学校	宮城県			◎
3	つくばインターナショナルスクール	茨城県	○	○	
4	※茗溪学園高等学校	茨城県			◎
5	※ぐんま国際アカデミー	群馬県			○
6	※昌平中学校	埼玉県		○	
7	※筑波大学附属坂戸高等学校	埼玉県			◎
8	インディア・インターナショナルスクール・イン・ジャパン	東京都			○
9	アオバジャパン・インターナショナルスクール	東京都	○	○	○
10	カナディアン・インターナショナルスクール	東京都	○		
11	K・インターナショナルスクール	東京都	○	○	○
12	JCQバイリンガル幼稚園	東京都	○		
13	神宮前小学校国際交流学級	東京都	○		
14	清泉インターナショナルスクール	東京都	○		○
15	セント・メリーズ・インターナショナルスクール	東京都			○
16	※玉川学園中学部・高等部	東京都		○	○
17	東京インターナショナルスクール	東京都	○	○	
18	※東京学芸大学附属国際中等教育学校	東京都		○	◎
19	※東京都立国際高等学校	東京都			○
20	みずほスクール	東京都	○		
21	※山梨学院大学附属高等学校	山梨県			◎
22	※インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢	長野県			○
23	サンモール・インターナショナルスクール	神奈川県			○
24	ホライゾン・ジャパン・インターナショナル・スクール	神奈川県			○
25	横浜インターナショナルスクール	神奈川県	○	○	○
26	※法政大学女子高等学校	神奈川県			◎
27	※サニーサイドインターナショナルスクール	岐阜県	○		
28	※加藤学園暁秀高等学校・中学校	静岡県		○	○
29	名古屋国際学園	愛知県	○		○
30	※名古屋国際中学校・高等学校	愛知県			○
31	京都インターナショナルスクール	京都府	○		
32	同志社国際学院	京都府	○		○
33	※立命館宇治高等学校	京都府			○
34	大阪YMCAインターナショナルスクール	大阪府	○		
35	関西学院大阪インターナショナルスクール	大阪府	○	○	○
36	カナディアン・アカデミー	兵庫県	○	○	○
37	関西国際学園	兵庫県	○		
38	神戸ドイツ学院	兵庫県	○		
39	マリスタ国際学校	兵庫県			◎
40	※英数学館高等学校	広島県			◎
41	※A I C J高等学校	広島県			○
42	広島インターナショナルスクール	広島県	○		○
43	福岡インターナショナルスクール	福岡県	○		○
44	※リンデンホールスクール中高学部	福岡県			○
45	沖縄インターナショナルスクール	沖縄県	○	○	
46	※沖縄尚学高等学校	沖縄県			◎
	合 計		22校	13校	32校

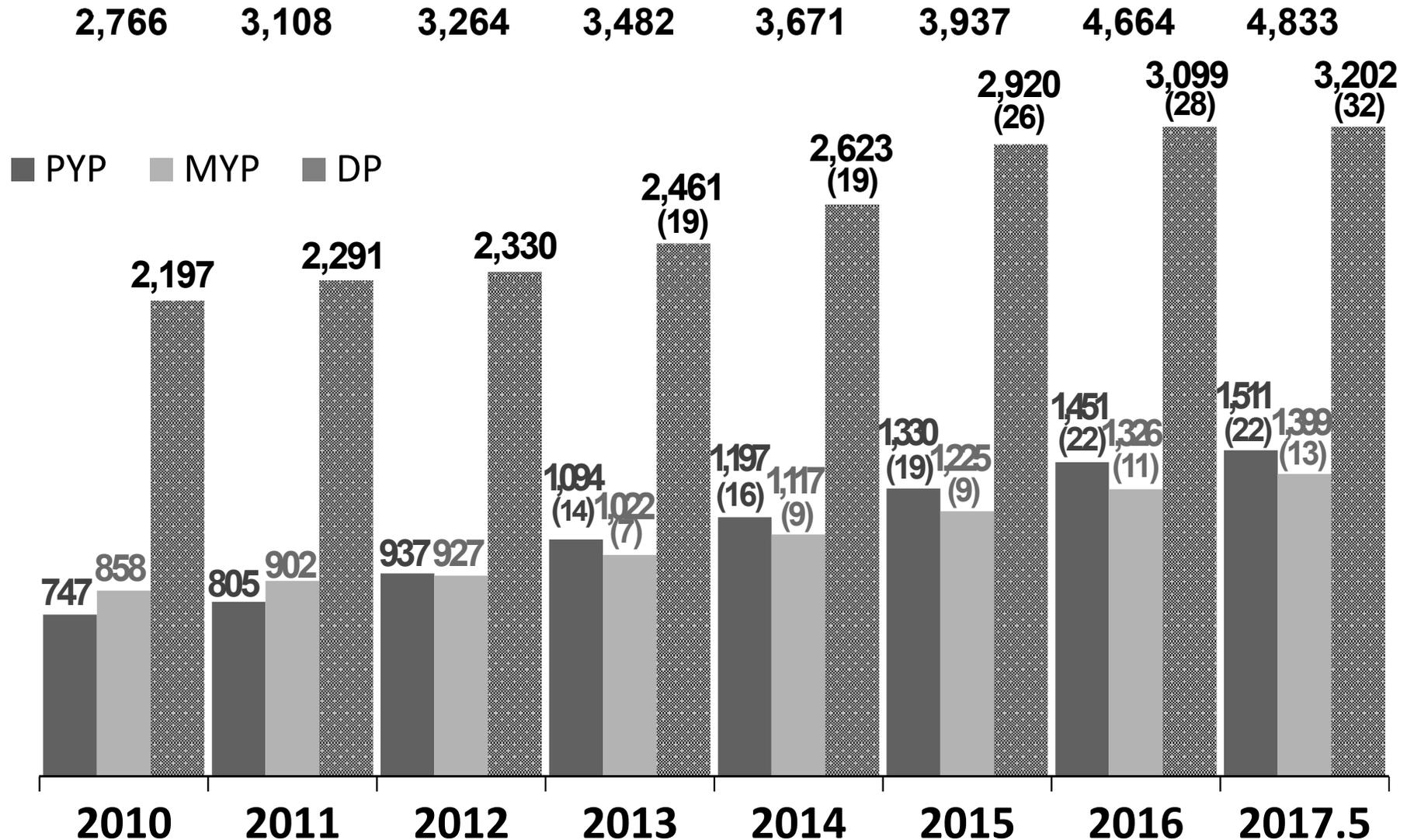
※・・・学校教育法第1条に規定されている学校 ◎・・・日本語DP実施校(9校)

(参考)世界における国際バカロレア認定校数 140以上の国・地域 4,819校

内訳 PYP実施校:1,506校 MYP実施校:1,396校 DP実施校:3,189校 CP実施校:133校

国際バカロレア (PYP,MYP,DP) の認定校数の推移

全認定校



※()内は日本国内の学校数。

※1校で複数のプログラムを実施している学校があるため、プログラムごとの学校数の合計は、全認定校数と一致しない。

※2017年は5月1日現在。それ以外の年は11月時点の学校数。



IBの学習者像

すべてのIBプログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

この「IBの学習者像」は、IBワールドスクール（IB認定校）が価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。

DPのカリキュラム

① 各グループから1科目ずつ選択し、計6科目を2年間で履修。ただし、グループ6(芸術)は他のグループからの科目に代えることも可能。6科目のうち、3~4科目を上級レベル(HL,各240時間)、その他を標準レベル(SL,各150時間)として履修。

グループ名	科目例
1 言語と文学 (母語)	言語A: 文学、言語A: 言語と文学、文学と演劇 [※]
2 言語習得 (外国語)	言語B、初級語学、古典語学
3 個人と社会	ビジネス、 経済 、 地理 、グローバル政治、 歴史 、心理学、環境システム社会 [※] 情報テクノロジーとグローバル社会、哲学、社会・文化人類学、世界の宗教、
4 理科	生物 、 化学 、 物理 、デザインテクノロジー、環境システムと社会 [※] コンピュータ科学、スポーツ・運動・健康科学
5 数学	数学スタディーズ 、 数学SL 、 数学HL 、数学FHL
6 芸術	音楽 、 美術 、演劇、ダンス、フィルム、文学と演劇 [※]

※なお、「文学と演劇」はグループ1と6の横断科目。「環境システムと社会」はグループ3と4の横断科目。また、「世界の宗教」および「スポーツ・運動・健康科学」はSLのみ。

② また、プログラムの「コア」となる、次の3つの必修要件を履修。

課題論文(EE: Extended Essay) : 履修科目に関連した研究分野について個人研究に取り組み、成果を4,000語(日本語の場合は8,000字)の論文にまとめる。

知の理論(TOK: Theory of Knowledge) : 「知識の本質」について考え、「知識に関する主張」を分析し、知識の構築に関する問いを探究する。批判的思考を培い、生徒が自分なりのものの見方や、他人との違いを自覚できるよう促す。最低100時間の学習。

創造性・活動・奉仕(CAS: Creativity/Activity/Service) : 創造的思考を伴う芸術などの活動、身体的活動、無報酬で自発的な交流活動といった体験的な学習に取り組む。

③ DP資格の取得には、上記を全て履修し、外部評価(国際バカロレア試験等)及び内部評価を通じて、原則として45点満点中24点以上を取得することが必要。配点は、6科目につき各7点(計42点)、3つの必修要件で計3点。

※「日本語DP」について

DPの授業・試験は、原則として、英語、フランス語又はスペイン語で行う必要があるが、その一部科目を、日本語で実施可能とするプログラム。□内の科目と必修要件が、日本語でも実施可能。(なお、□内の科目については平成28年11月から、□内の科目については平成30年11月から最終試験を実施。)

なお、日本語DPでも、6科目中2科目(通常、グループ2(外国語)に加えて更に1科目)は、英語等で履修する必要がある。

国際バカロレア導入に関する教育委員会の主な認定・検討状況

1. IB機構からDP認定をうけた教育委員会

○東京都（東京都立国際高等学校）：英語DP

平成27年5月にDP認定を受け、平成28年4月から高等学校2年生を対象にDP課程を開始。

2. IB機構に申請中の教育委員会

○札幌市（市立札幌開成中等教育学校）：MYP、日本語DP

市立札幌開成中等教育学校でMYP・DPの導入をすすめている。MYPは平成27年度に候補校となり、平成29年3月16日に認定校となった。DPは平成28年に候補校申請を行い、平成30年4月までに認定を目指している。

○滋賀県（県立虎姫高等学校）：日本語DP

平成25年12月、教育長の県議会本会議での答弁において、IB（DP）の導入について、課題の解決を図りながら取り組む方針を表明。

平成26年4月、県立虎姫高等学校をIB導入に向けた調査研究指定校に指定。同校は平成29年1月に候補校に認定された。

3. 検討中の教育委員会

○北海道：DP（日英未定）

平成26年2月、教育長が、道議会冒頭における「教育行政執行方針」で、将来的なIB（DP）の導入について検討を進める方針を表明。平成27年6月の教育行政執行方針においても「将来における国際バカロレアの導入について検討」する旨記載。

○さいたま市：MYP、DP（日英未定）

平成31年度にさいたま市立大宮西高等学校（同市大宮区）を中高一貫6年制の「中等教育学校」へ改編し、MYP・DPの導入を目指す。MYPは開校年度の平成31年度を目途に候補校申請予定。DPにおいては、平成32年度を目途に候補校申請ができるように研究を進めている。

○神奈川県：日本語DP

県教育委員会は平成28年1月に「県立高等学校改革実施計画を公表。」、平成31年度に「県立横浜国際高等学校」の「国際バカロレア」からの認定校をめざす。

○山梨県：日本語DP

平成28年2月の定例県議会において、県知事が平成32年4月からDP課程の導入を目指す旨発言。同年7月、「県立甲府西高等学校」への導入を決定。翌年3月に候補校申請を行った。

○岐阜県：DP（日英未定）

「岐阜県立高等学校活性化計画策定委員会 審議まとめ」（平成28年3月29日）の提案をうけ、平成28年度、外部有識者等による「国際バカロレア検討委員会」を設置。同委員会において、IBのニーズ把握や県立高等学校へのDPコースの導入について検討した結果、県立高等学校の活性化策としてDPコースの導入を優先的に進めるのではなく、今後の状況変化にも注視しながら継続して検討するとの結論に至った。

○大阪市：日本語DP

平成27年9月に改正・施行された国家戦略特別区域法に基づく中高一貫の公設民営学校の平成31年度開校を目指し、平成28年12月に市会本会議にて関連条例案が可決。当該中高一貫校において、IB（DP）を導入予定。

○広島県：英語DP

平成31年4月に開校予定の全寮制の併設型中高一貫校の設置場所（大崎上島町）を、平成28年5月の県教育委員会会議において決定。当該中高一貫校において、IB（DP）を導入する予定。

○高知県：MYP、日本語DP

高知南中学校・高等学校と高知西高等学校を統合して新たな中高一貫教育校（名称は「高知国際中学校・高等学校」）を設置（設置条例：平成29年7月1日施行）。

平成30年4月 中学校 開校

平成33年4月 高等学校 開校

中学校ではMYPの教育活動を実施予定。

高等学校では、グローバル科を設置し、その中に探究コース及びIBコースを設置予定。

○大分県：未定

県教育委員会が設置した有識者会議が取りまとめた「大分県グローバル人材育成推進プラン」（平成26年10月）において、市町村教育委員会とも連携し、国際バカロレアの認定を受けることについて研究を行うとされている。

※報道及び各教育委員会からの聴取内容等に基づき文部科学省にて作成（平成29年4月現在）

IBを活用した大学入試について

全学部導入済

筑波大学
お茶の水女子大学
岡山大学
広島大学
鹿児島大学
国際教養大学
国際基督教大学
上智大学
玉川大学
東洋大学
神戸女学院大学
関西学院大学
岡山理科大学
日本獣医生命科学大学
立命館アジア太平洋大学

一部学部導入済

東北大学
東京大学
東京外国語大学
東京芸術大学
金沢大学
名古屋大学
京都大学
大阪大学
長崎大学
横浜市立大学
都留文科大学
大阪市立大学
慶應義塾大学
工学院大学
順天堂大学
法政大学
武蔵野大学
立教大学
早稲田大学
中京大学
愛知医科大学
立命館大学

導入予定/検討中大学

(平成29年度)
北海道大学
東京医科歯科大学
豊橋技術科学大学
京都工芸繊維大学
(平成30年度)
創価大学
(導入時期検討中)
千葉大学
長岡技術科学大学
九州大学
熊本大学
芝浦工業大学
明治大学

この他、10以上の国立大学がIB入試の導入を検討中。

【注】

- ・日本の学校の卒業生を対象としているものを記載(帰国生や留学生に対象を限定しているものを除く。)
- ・各大学の募集要項、文部科学省「スーパーグローバル12学創成支援」採択調書その他の公表資料に基づき文部科学省にて作成したもので、必ずしも全ての情報を網羅しているわけではありません。(平成28年10月時点)

国際バカロレアを活用した大学入試例

- 【注】
- ・日本の学校の卒業生を対象としているものを記載しています(帰国生や留学生を対象を限定しているものを除く)。
 - ・本資料は、各大学の募集要項、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」採択調書その他の公表資料に基づき文部科学省にて作成したものであり、必ずしも全ての情報を網羅しているわけではありません。また、実際の出願等に当たっては、各自、最新の情報を確認してください。
 - ・この資料での試験実施年度は、入学年度ではなく、試験が行われる年度として記載しています。(例:平成28年度実施試験＝平成29年3月までに実施される試験のこと)

	国公私	大学名	試験実施年度 (入学年度ではない)	対象学部	募集人数(人)	入試名称	選抜方法	備考
1. 導入済み								
1	国立	東北大学	平成28年度	文学部、法学部、理学部、医学部医学科、工学部、農学部	若干名	国際バカロレア入試	選抜時期: 11月中旬(文学部、理学部、工学部、農学部)、2月上旬(法学部、医学部医学科) 出願要件: 総合成績35点以上(法学部、理学部、工学部、農学部)、36点以上(文学部)、38点以上(医学部医学科)等の条件満たす必要がある。 選抜方法: 出願書類と筆記試験及び面接(文学部、理学部、医学部医学科、工学部、農学部)、出願書類と面接(法学部)	※IB資格授与(見込)者を対象(国内IB校を含む) ※8月下旬募集要項公表
2	国立	筑波大学	平成28年度以前より実施	(全学群) 人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、生命環境学群、理工学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群	若干名	国際バカロレア特別入試	書類、面接	
3	国立	東京大学	平成28年度以前より実施	法学部、教養学部、工学部	45人程度名(推薦入試全体で)	推薦入試	センター試験、書類、グループディスカッション(法)、小論文(教養、工)、面接	推薦要件に合致することを証明する書類例
4	国立	東京外国語大学	平成28年度以前より実施	国際社会学部	若干名	帰国生等特別推薦入試(※)	書類、小論文、面接	※国内IB校も対象
5	国立	東京芸術大学	平成28年度	音楽学部	若干名(一般入試の募集人員に含む)	外国教育課程出身者特別入試	書類、面接、実技試験等	SGU構想調査より
6	国立	お茶の水女子大学	平成28年度	(全学部、ただし文教育学部芸術・表現行動学科を除く) 文教育学部(グローバル文化学環を含む、文教育学部芸術・表現行動学科を除く)、理学部、生活科学部	全学で20名以内	AO入試 (新フンポルト入試)	(1次選考)プレゼミへの出席、書類 (2次選考) 文系: 図書館入試(レポート、グループ討論、面接等) 理系: 実験室入試(ポスター発表、面接又は思考力・探求力をみる専門性のある試験課題)	「大学教育再生加速プログラム」選定取組(1次選考時にIB活用)

	国公私	大学名	試験実施年度 (入学年度ではない)	対象学部	募集人数(人)	入試名称	選抜方法	備考
7	国立	金沢大学	平成28年度	人間社会学域、理工学域、 医薬保健学域(医学類を除く)	若干名(各学類)	国際バカロレア入試	11月26日(土)、11月27日(日)(27日(日)は経済学類のみ): 書類(国際バカロレア資格証書の写し及び成績評価証明書、志望理由書)、面接・口述試験(経済学類、地域創造学類は、書類、小論文及び面接・口述試験) IB資格の条件:言語Aを日本語により履修し、成績評価が4以上の者(ただし、人文学類、法学類、経済学類、地域創造学類、国際学類、自然システム学類においては、言語B(HL)を日本語により履修し、成績評価が4以上の者を含む)とし、学類毎に必要な科目、成績評価を指定している。	
8	国立	名古屋大学	平成28年度	文学部、教育学部、法学部、 経済学部、情報学部(仮称)、 理学部、医学部医学科、工学部、 農学部	294名(推薦入試全体で)	推薦入試	○文学部 11月上旬:(1次選考)書類 11月中旬:(2次選考)小論文、面接 ○教育学部、法学部、経済学部、 情報学部(仮称)、理学部、 医学部医学科、工学部、農学部 1月中旬:(1次選考)書類、センター試験成績 2月上旬:面接等	IBスコアは任意提出書類
9	国立	京都大学	平成28年度 以前より実施	法学部、経済学部	法学部20名 経済学部25名	特色入試	センター試験、書類+学部毎の選抜方法(※) (※) 法学部:小論文 経済学部:論文	高校在学中の顕著な活動歴の例
10	国立	大阪大学	平成28年度 以前より実施	理学部、工学部、基礎工学部、 人間科学部	理学部、工学部及び基礎工学部は若干名 人間科学部は7名	学部英語コース特別入試	書類、面接	
				文学部、人間科学部、外国語学部、 法学部、経済学部	141名	世界適塾AO入試	センター試験、書類、面接、口頭試問、 小論文等で学部毎に異なる。	
11	国立	岡山大学	平成28年度 以前より実施	(全学部) 文学部、教育学部、法学部、 経済学部、理学部、医学部、 歯学部、薬学部、工学部、 環境理工学部、農学部、 マッチングプログラムコース	若干名 (医学部医学科のみ3名)	国際バカロレア入試(AO入試)	・書類、面接(教育、医、歯) ・書類のみ(その他の学部)	
12	国立	広島大学	平成28年度	文学部、教育学部、法学部、 経済学部、理学部、医学部、 歯学部、薬学部、工学部、 生物生産学部	若干名	AO入試対象別評価方式(帰国生入試) AO入試対象別評価方式(国際バカロレア入試)	11月中旬 出願書類(志望理由書、IB成績証明書等)、 面接、小論文(総合科学部)、筆記試験(理学部) 各募集単位が指定する科目の履修が必要な場合あり	

	国公私	大学名	試験実施年度 (入学年度ではない)	対象学部	募集人数(人)	入試名称	選抜方法	備考
13	国立	長崎大学	平成28年度	多文化社会学部多文化社会学科	5名	AO入試 I	(1次選考)書類 (2次選考)面接(英語及び日本語)、筆記試験	
14	国立	鹿児島大学	平成28年度 以前より実施	(全学部) 法文学部、教育学部、理学部、医学部、歯学部、工学部、農学部、水産学部、共同獣医学部	若干名	国際バカロレア入試	・書類(法・人文学科、工、水産・水産学科) ・書類、面接(その他の学部学科)	
15	公立	国際教養大学	平成28年度 以前より実施	国際教養学部	25名(4月入学、9月入学の合計)	AO・IB・高校留学生入試	書類、面接、英語小論文	国内IB校が対象
16	公立	横浜市立大学	平成28年度 以前より実施	国際総合科学部	若干名	国際バカロレア入試	書類、小論文、面接	
17	公立	都留文科大学	—	文学部(国際教育学科)	若干名	国際バカロレア入試AO入試	書類、面接	
						国際バカロレア推薦入学試験	筆記(小論文)、書類、面接	
18	公立	大阪市立大学	平成28年度 以前より実施	文学部	若干名	国際バカロレア入試	書類、小論文、口述	
19	私立	慶應義塾大学	平成28年度 以前より実施	法学部	20名(帰国生対象入試と合わせて)	国際バカロレア資格取得者 (日本国内)対象入試	書類、論述、面接	
				総合政策学部、環境情報学部	200名(他のAO入試(全4方式)と合わせて)	AO入試(IB方式)	書類、面接	
20	私立	工学院大学	平成28年度 以前より実施	先進工学部、工学部、建築学部、情報学部	若干名	国際バカロレア特別入試	書類、小論文、面接	
21	私立	国際基督教大学	平成28年度 以前より実施	教養学部	ユニヴァーサル・アドミッションズ全体*で90名 *2017年度:4月入学帰国生入学試験・9月入学国際学生入学試験・9月入学書類選考	ユニヴァーサル・アドミッションズ4月入学帰国生入試(※)	書類、日本語小論文、面接	※国内のIB校も出願可能。
						ユニヴァーサル・アドミッションズ9月入学書類選考(※)	書類	

	国公私	大学名	試験実施年度 (入学年度ではない)	対象学部	募集人数(人)	入試名称	選抜方法	備考
22	私立	順天堂大学	平成28年度 以前より実施	国際教養学部	特別入試(Ⅰ)20名 特別入試(Ⅱ)20名 特別入試(Ⅲ)5名 ※45名(特別入試全体(全4方式)と合わせて)	国際バカロレア特別入試	書類、筆記(英文要約・意見記述)、面接	※3回実施する特別入学試験には、それぞれ以下の4方式があり、募集人数は特別入試全体で定めている。 ・AO入試 ・海外帰国生特別入試 ・国際バカロレア特別入試 ・外国人特別入試
				医学部	若干名 国際臨床医・研究医枠入学試験(A~D方式)の全4方式を合わせた人数	国際臨床医・研究医枠入学試験 B方式:国際バカロレア入学試験	①書類選考 ②一次試験:小論文・英作文試験、面接試験 ③二次試験:大学入試センター試験	①IB6科目中、科学のうち物理・化学・生物から1科目および数学を履修していること(SLまたはHL)。 ②次の英語能力を示す資格・スコアについて、いずれかの基準を満たすこと。 TOEFL-iBT80点以上/IELTS 6.5以上/TOEIC 750点以上/英検準1級または1級 ③大学入試センター試験で本学が指定した教科・科目を受験していること。
23	私立	上智大学	平成28年度 以前より実施	(全学部) 神学部、文学部、総合人間科学部、法学部、経済学部、外国語学部、総合グローバル学部、国際教養学部、理工学部 ※受験する入試種別により出願可能な学科は異なる。	・国際バカロレア(IB)入試 若干名 ・推薦入学試験(公募制) 528名(公募制推薦入試の募集人員) ・国際教養学部入試 145名(国際教養学部入試の募集人数) ・理工学部英語コース:若干名	・国際バカロレア(IB)入試 ・推薦入学試験(公募制) ・国際教養学部入試 ・理工学部英語コース入試	・国際バカロレア(IB)入試 書類(一部学科のみ面接あり) ・推薦入学試験(公募制) 書類、学科ごとの個別テスト、面接 ・国際教養学部入試、理工学部英語コース: 書類	平成29年度実施試験より国際バカロレア(IB)入試を新設。
24	私立	玉川大学	平成28年度 以前より実施	(全学部) 文学部、農学部、工学部、経営学部、教育学部、芸術学部、リベラルアーツ学部、観光学部	若干名	国際バカロレアAO型入学審査	書類	
25	私立	東洋大学	平成28年度 以前より実施	(全学部) 文学部、経済学部、経営学部、法学部、社会学部、国際学部、国際観光学部、情報連携学部、ライフデザイン学部、理工学部、総合情報学部、生命科学部、食環境科学部	若干名	国際バカロレアAO入試	書類、面接	

	国公私	大学名	試験実施年度 (入学年度で はない)	対象学部	募集人数(人)	入試名称	選抜方法	備考
26	私立	法政大学	平成28年度 以前より実施	文学部(哲学科・英文学 科)、経済学部国際経済学 科、国際文化学部、人間環 境学部、キャリアデザイン 学部、グローバル教養学 部	国際文化学部10名 グローバル教養学部40名 上記のほかは、各学部若干名	国際バカロレア利用自己推 薦入試、国際文化学部分野 優秀者特別入試、グローバ ル教養学部自己推薦入試 (12月入試、秋季入学入試 【国外選考Ⅰ期・Ⅱ期】)	【国際文化学部】 10月下旬:書類(DPでフルディプロマを取得済み、もしくは 取得見込みであり入学時までにはフルディプロマを取得してい ること。DPカリキュラムのグループ3「個人と社会」で上級レ ベル4点または標準レベル5点以上。) 11月中旬:面接・小論文 【グローバル教養学部(12月入試)】 11月下旬:書類(DPでフルディプロマを取得済み、もしくは 取得見込みであり入学時までにはフルディプロマを取得してい ること。English A: LIT または English A: LALを履修してい ること。) 10月中旬:面接 【グローバル教養学部(秋入学国外選考Ⅰ期)】 1月下旬:書類(DPでフルディプロマを取得済み、もしくは取 得見込みであり入学時までにはフルディプロマを取得してい ること。English A: LIT または English A: LALを履修してい ること。) 【グローバル教養学部(秋入学国外選考Ⅱ期)】 3月下旬:書類(DPでフルディプロマを取得済み、もしくは取 得見込みであり入学時までにはフルディプロマを取得してい ること。English A: LIT または English A: LALを履修してい ること。) 【その他の学部】 11月下旬:書類(DPでフルディプロマを取得済み、もしくは 取得見込みであり、見込点26ポイント以上の者。入学時 までにフルディプロマを取得していること。) 12月中旬:面接・小論文 【証明書】 (1)国際バカロレア資格証書(IB Diploma)の写し (2)IB最終試験6科目の成績評価証明書	
27	私立	武蔵野大学	平成28年度 以前より実施	グローバル学部、教育学部		国際バカロレア特別入試	書類審査、面接	
28	私立	立教大学	平成28年度 以前より実施	経営学部(方式B)	若干名	自由選抜入試	書類、小論文、面接	

	国公私	大学名	試験実施年度 (入学年度ではない)	対象学部	募集人数(人)	入試名称	選抜方法	備考
29	私立	早稲田大学	平成28年度 以前より実施	【日本語による学位プログラム】 政治経済学部、人間科学部、スポーツ科学部 【英語による学位プログラム】 国際教養学部、政治経済学部、社会科学部、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部、文化構想学部	【日本語による学位プログラム】 ○政治経済学部グローバル入試:50名 ○渡日を要さない学部入学試験:若干名 政治経済学部:若干名 人間科学部:若干名 スポーツ科学部:若干名 小計:50名 【英語による学位プログラム】 【英語による学位プログラム】 国際教養学部AO入試:225名(4月100名、9月125名) 政治経済学部英語プログラム:100名 社会科学部英語プログラム:20名 基幹理工学部英語プログラム:35名 創造理工学部英語プログラム:25名 先進理工学部英語プログラム:15名 文化構想学部英語プログラム:15名 小計:435名 総計:485名(他の出願資格とあわせて)	【日本語による学位プログラム】 政治経済学部 ○グローバル入試、○渡日を要さない学部入学試験 人間科学部 ○渡日を要さない学部入学試験 スポーツ科学部 ○渡日を要さない学部入学試験 【英語による学位プログラム】 国際教養学部 ○4月入学AO入試 国際選考、○9月入学AO入試 政治経済学部 ○英語プログラムAO入試 社会科学部 ○英語プログラムAO入試 基幹理工学部 ○英語プログラムAO入試 創造理工学部 ○英語プログラムAO入試 先進理工学部 ○英語プログラムAO入試 文化構想学部 ○英語プログラムAO入試	【日本語による学位プログラム】 ○政治経済学部グローバル入試(書類・論述試験・面接、出願:7月~8月、論述試験・面接:9月) ○渡日を要さない学部入学試験(政治経済学部、人間科学部、スポーツ科学部)(書類選考+日本語能力試験成績、出願10月) 【英語による学位プログラム】 ○国際教養学部AO入試(4月入学AO入試国外選考:書類選考・面接、出願:8月~9月、面接:10月~11月、9月入学AO入試:書類選考・面接、前期出願:1月~2月、面接:3月~4月、後期出願:2月~4月、面接:5月~6月) ○英語プログラムAO入試(政経、社学、基幹・創造・先進理工、文構)(書類選考・面接(文構以外)、書類選考(文構)、前期出願:10月、面接:1月、後期出願:2月、面接:5月)	IBは国が定めた出願資格の1つであるため、一般入試においては全学部で出願を認めているが、IBスコアが判定に占める割合は極めて低い。 たいては、英語プログラムAO入試のように、書類選考が判定においては主要な位置を占めている入試に関しては、IBスコアを重要な判定材料の一つとして可否判定を行う。
30	私立	日本獣生命科学大学	平成28年度 以前より実施	(全学部) 獣医学部、応用生命科学部	若干名	特別選抜入学試験(帰国子女及びIB取得者)	12月上旬:書類審査(成績証明書、IB資格保有を証明する書類等)、面接、小論文…400字以内/60分、基礎学力検査(英語・数学)…2科目/90分	
31	私立	中京大学	平成28年度	国際英語学部、国際教養学部、文学部、心理学部、法学部、経済学部、経営学部、総合政策学部、現代社会学部、工学部、スポーツ科学部	○グローバル特別入試 経済学部(5名)、経営学部(7名)、総合政策学部(4名)、工学部機械システム工学科(2名)、電気電子工学科(2名)、情報工学科(2名)、メディア工学科(2名)、国際英語学部国際英語学科国際英語キャリア専攻(5名)、英語圏文化専攻(5名)、国際学専攻(5名)、国際教養学部(7名)、心理学部(4名)、法学部(5名)、現代社会学部現代社会学科社会学専攻(2名)、コミュニティ学専攻(2名)、社会福祉学専攻(2名)、国際文化専攻(3名)、スポーツ科学部スポーツ健康科学科(2名)、競技スポーツ科学科(3名)、スポーツ教育学科(2名) ○一芸一能(特I)推薦 文学部歴史文化学科(スポーツ・社会活動・文化・芸術型と合わせて2名)、日本文学科(スポーツ・社会活動・文化・芸術型と合わせて2名)、言語表現学科(スポーツ・社会活動・文化・芸術型と合わせて2名) ○帰国生徒入試 全学部(各学科・各専攻とも若干名)※文学部言語表現学科を除く	・グローバル特別入試 ・一芸一能(特I)推薦入試 ・帰国生徒入試	○グローバル特別入試(試験日:2016年11月12日、19日) 【経済・経営、総合政策】書類、小論文、面接 【工学部】書類、面接(数学及び物理などの基礎学力を問う場合がある) 【国際英語】書類、面接(日本語と英語) 【国際教養】書類、面接(外国語による質問を行う場合ある) 【心理、法、現代社会、スポーツ科学】書類、基礎学力試験(公募制一般推薦(基礎学力型)と共通問題を課す)、面接 ○一芸一能(特I)推薦[資格型](試験日2016年11月19日) 【文】 書類、国語基礎学力型(公募制一般推薦 国語基礎学力型問題(歴史文化学科については国語・日本史基礎学力型問題)と同一)、面接 ○帰国生徒入試(試験日:2016年10月15日、2017年2月7日) ※別紙ご参照ください	詳細は別紙ご参照ください。
32	私立	愛知医科大学	平成28年度	医学部	若干名	国際バカロレア入試	書類、適性検査、面接	書類には、TOEIC又はTOEFL-iBTのスコア証明書含む

	国公私	大学名	試験実施年度 (入学年度ではない)	対象学部	募集人数(人)	入試名称	選抜方法	備考
33	私立	関西学院大学	平成28年度 以前より実施	神学部、文学部、社会学部、法学部、経済学部、商学部、人間福祉学部、国際学部、教育学部、総合政策学部、理工学部	若干名(神学部、教育学部、理工学部) 他試験とあわせて計132名(文学部、社会学部、法学部、経済学部、商学部、人間福祉学部、国際学部、総合政策学部)	インターナショナル・バカロレア入試 (理工学部は、グローバルサイエンティスト・エンジニア入試)	9月中旬 書類(プレディクティドスコアもしくは、成績評価証明書・ディプロマ)・面接 ※プレディクティドスコアが26ポイント以上で出願可。プレディクティドスコアが32未満の場合は、筆記(英語題材論述方式、日本語小論文)を課す。 理工学部の出願資格はプレディクティドスコアが26ポイント以上の者、もしくはフルディプロマ取得者。数理科学科、情報科学科、人間システム工学科を志望する者はグループ5(数学)をHLで履修のこと。他の学科を志望する者は数学を「数学スタディーズ」以外で履修し、かつ、数学およびグループ4(理科)の中から1科目以上をHLで履修のこと。	グローバル入試の中カテゴリーとして実施
34	私立	立命館大学	平成28年度	文学部(国際文化学域・コミュニケーション学域)	3名	文学部「国際方式(デュアル・ディグリー・プログラム)」入学試験	書類審査および個人面接	SGU構想調査より
35	私立	神戸女学院大学	平成28年度	(全学部) 文学部、音楽学部、人間科学部	若干名	国際バカロレア入試	・面接(文学部) ・学科別小論文、面接(人間科学部) ・楽典、ソルフェージュ(聴音・新曲視唱)、主専攻実技 副専攻ピアノ実技、面接(音楽学部音楽学科舞踊専攻以外) ・指示課題、自由課題、リズム、ソルフェージュ、面接(音楽学部音楽学科舞踊専攻)	
36	私立	岡山理科大学	—	(全学部) 理学部、工学部、総合情報学部、生物地球学部、教育学部	若干名	国際バカロレア入試	前期:10月上旬、後期:2月中旬の2回実施。選考は基礎資料および面接で行います。	新設の経営学部は平成28年度より実施予定

	国公私	大学名	試験実施年度 (入学年度ではない)	対象学部	募集人数(人)	入試名称	選抜方法	備考
37	私立	立命館アジア太平洋大学	平成28年度 以前より実施	アジア太平洋学部、国際経営学部	①国内学生 265名(他の出願資格と合わせて) ②国際学生 アジア太平洋学部:18名、国際経営学部:25名(他の出願資格とあわせて)	①国内学生 AO入試の全ての方式 ②国際学生 日本国内に在住する国際学生を対象とした入学試験	①国内学生 書類、小論文、(国内学生の一部方式のみ)、面接 ②国際学生 (4月入学) 10月下旬~11月上旬:書類、11月下旬:面接/1月中旬:書類、2月上旬:面接 (9月入学) 10月下旬~11月上旬:書類、11月下旬:面接/3月中旬:書類、4月上旬:面接/5月下旬:書類、6月下旬:面接	①国内学生②国際学生とも IBは出願資格の1つ

	国公私	大学名	試験実施年度 (入学年度ではない)	対象学部	募集人数(人)	入試名称	選抜方法	備考
2. 導入予定／検討中								
1	国立	北海道大学	平成29年度	総合教育部 ※2年次進級時に学部へ移行。移行対象は全学部(文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、農学部、獣医学部、水産学部)	総合入試文系5名 総合入試理系10名	国際総合入試	(1次選考)書類 (2次選考)面接	
2	国立	千葉大学	—	国際教養学部(入学後、理学部、工学部、園芸学部、文学部、教育学部、法政経学部に移動可能)	50名(外国人枠とあわせて)	特別入試、飛び入学	—	SGU構想調書より
3	国立	東京医科歯科大学	平成29年度	(全学部) 医学部、歯学部	若干名(特別選抜 I (推薦入試)とあわせて)	特別選抜 I (国際バカロレア入試)	11月上旬:出願期間 提出書類:入学志願書・履歴書・志願理由書・評価書・国際バカロレア資格証書の写し・IB最終試験の成績証明書・EE(課題論文)の写し及び日本語要約・TOK(知識の理論)の学習成果をまとめたレポート・CAS(創造性・活動・奉仕)の概要・英語の成績を証明するもの(過去6ヶ月以内のTOEFL iBTまたはIELTSスコアレポート)※英語を履修していない者のみ。 11月下旬:小論文、面接等の実施 IB資格の取得において指定する科目: ・医学部医学科①日本語Aまたは日本語B(HL)②数学(HL)③物理、化学、生物から2科目(いずれか1科目はHL) ・医学部保健衛生学科看護学専攻①日本語Aまたは日本語B(HL)②物理、化学、生物から1科目(HLまたはSL) ・医学部保健衛生学科検査技術学専攻①日本語Aまたは日本語B(HL)②物理、化学、生物から1科目(HLまたはSL) ・歯学部歯学科①日本語A(成績評価4以上)②数学(HL成績評価4以上)③物理、化学、生物から1科目(HL成績評価4以上) ・歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻①日本語A(成績評価4以上)②数学、物理、化学、生物から1科目(HL成績評価3以上またはSL成績評価5以上) ・歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻①日本語A(成績評価4以上)②数学、物理、化学、生物から1科目(SL成績評価4以上)	SGU構想調書より

	国公私	大学名	試験実施年度 (入学年度ではない)	対象学部	募集人数(人)	入試名称	選抜方法	備考
4	国立	長岡技術科学大学	—	—	—	—	—	SGU構想調書より 「IB含めた多様な資格者受入れ策を展開」
5	国立	豊橋技術科学大学	平成29年度 年度から	工学部(グローバル技術科学アーキテクト養成コース)	第1次募集:15名 第2次募集:若干名	グローバル技術科学アーキテクト養成コース入試	推薦書及び成績証明書並びに志望理由書(英語又は日本語)、小論文(英語又は日本語)、英語検定試験スコア及び日本留学試験又は大学入試センター試験の得点に加え、面接(英語および日本語を併用)を実施したうえでの総合判定	
6	国立	京都工芸繊維大学	平成29年度 以降	—	—	ダビンチ(AO)入試	—	
7	国立	岡山大学		グローバル・ディスカバリー・プログラム	第1期:10名 第2期:15名 第3期:5名	グローバル・ディスカバリー・プログラム国際入試	第1次審査:書類審査 第2次審査:面接	グローバル・ディスカバリー・プログラム国際入試は、募集から試験まで3期をかけて実施するもの。(2017年10月入学より学生募集を開始し、2018年4月より入試を実施する予定。)
8	国立	九州大学	—	国際教養学部(仮称)	—	—	書類、面接	SGU構想調書より
9	国立	熊本大学	—	—	—	AO入試	—	検討中
10	私立	芝浦工業大学	—	—	—	—	—	SGU構想調書より 「2020年度からIB資格取得者が入学できるコースの整備に着手し、受け入れのための具体的な体制を整える予定」
11	私立	創価大学	平成30年度	国際教養学部	—	指定校推薦入試※	—	SGU構想調書より 「平成30年度からは、全学部の公募推薦入試においてIBスコアを活用する。」※IB校を指定校とする。国際教養学部も全学部導入に合わせる。
12	私立	明治大学	—	—	—	国際バカロレア入学試験(仮称)	書類、TOEFL、面接	SGU構想調書より

平成 29 年度大学入学選抜実施要項（抜粋）

（平成 28 年 5 月 31 日付け 28 文科高第 266 号文部科学省高等教育局長通知）

第 6 学力検査等

4 資格・検定試験等の成績の活用

- (1) 入学志願者の能力・適性や学習の成果、活動歴等を多角的かつ客観的に評価する観点から、例えば、以下のとおり、学部等の特性及び必要に応じ信頼性の高い資格・検定試験等の活用を図ることが望ましい。
 - ① 入学志願者の外国語におけるコミュニケーション能力を適切に評価する観点から、「英語力評価及び入学選抜における資格・検定試験の活用促進について」（平成 27 年 3 月 31 日付け 26 文科初第 1495 号文部科学省初等中等教育局長・文部科学省高等教育局長通知）を踏まえ、実用英語技能検定（英検）や TOEFL 等、「聞く」「読む」「話す」「書く」の 4 技能を測ることのできる資格・検定試験等の結果を活用する。
 - ② 入学志願者の優れた理数系の能力を適切に評価する観点から、国際科学オリンピック等の結果を活用する。
 - ③ 基礎的・基本的な知識・技能に加え、「主体的に学び考える力」を育成する上で有益なプログラムとして国際的に評価されている国際バカロレアの資格や成績を活用する。
- (2) 資格・検定試験等の成績の活用には、下記第 7 の学力検査実施教科・科目及び試験方法等の発表の際にその旨を明らかにするとともに、具体的な活用方法（例えば、個別試験の成績に代えて当該試験等の結果を用いる場合における得点の換算方法等）を明らかにする。また、当該試験の結果の確認方法等について事前に実施機関に確認しておく。

国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの導入を促進するための教育課程の特例措置について

1. 国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (IBDP) について

- 国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (以下、IBDP) とは、国際バカロレア機構が実施する国際的な教育プログラム。16歳～19歳を対象としたプログラムで、2年間で履修し、最終試験に合格すると、国際的に認められる大学入学資格 (国際バカロレア資格) を取得できる。
- 「日本再興戦略 -JAPAN is BACK-」 (平成25年6月14日閣議決定) において、以下の通り提言。
「一部日本語による国際バカロレアの教育プログラムの開発・導入等を通じ、国際バカロレア認定校等の大幅な増加を目指す (2018年までに200校)。」
- 「国際バカロレアアドバイザー委員会報告書 (2014年4月)」において、IBの科目と学習指導要領の科目の対応関係について整理を行い、一定の考え方を示すことが重要である旨提言。
- 教育再生実行会議第七次提言 (平成27年5月14日) において、以下の通り提言。
「国は、国際バカロレア認定校においては、学習指導要領と国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの双方を、より無理なく満たせるようにするための措置を講じる。」

2. 学校教育法施行規則の改正等

- 学校教育法施行規則を改正し、国際バカロレアと学習指導要領の双方を無理なく履修できる特例措置を新設。具体的には、以下の内容を告示で規定。
 - ① 学校設定教科・科目として設置したIBDPの科目について、生徒の負担を軽減するために、卒業に必要な単位数に算入できる上限を拡大 (20単位⇒36単位) すること。
 - ② 英数理の必履修科目及び総合的な学習の時間については、関連するIBDP科目の履修をもって代えることができること。
 - ③ 国語以外の教科等については、英語による指導を行うことができること。
- 本年8月19日に、公布・施行。

27文科初第1227号
平成27年12月22日

各都道府県教育委員会教育長
各指定都市教育委員会教育長
各都道府県知事
構造改革特別区域法第12条第1項
の認定を受けた各地方公共団体の長
各国公立大学長（大学院大学を除く）
殿

文部科学省初等中等教育局長
小松 親次郎

文部科学省高等教育局長
常盤 豊

学校教育法施行規則の一部を改正する省令及び国際バカロレア
・ディプロマ・プログラム認定校における教育課程の基準の特
例の制定について（通知）

このたび、別添のとおり「学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成27年文部科学省令第28号）」及び「国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校における教育課程の基準の特例（平成27年文部科学省告示第127号）」（以下「文部科学省告示」という。）が、平成27年8月19日に公布され、公布の日から施行されました。

今回の改正等の概要及び留意事項については、下記のとおりですので、十分に御了知の上、適切に対処ください。

また、各都道府県教育委員会におかれては、所管の学校及び域内の市町村教育委員会に対して、各指定都市教育委員会におかれては所管の学校に対して、各都道府県知事及び構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた各地方公共団体の長におかれては、所轄の学校及び学校法人等に対して、各国立大学長におかれては、その管下の学校に対して、このことを周知くださるようお願いいたします。

記

第1 改正等の概要

1 学校教育法施行規則の一部を改正する省令（平成27年文部科学省令第28号）

スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア・ディプロマ・プログラムを提供する学校として認められた高等学校及び中等教育学校の後期課程について、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムを円滑に実施することができるよう、教育課程の基準の特例として文部科学大臣が別に定めるところによるものとする。こと。（第88条の2及び第108条第2項関係）

2 国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校における教育課程の基準の特例（平成27年文部科学省告示第127号）

学校教育法施行規則第88条の2（同令第108条第2項において準用する場合を含む。）の規定による教育課程の基準の特例について以下のとおり定めたこと。

- (1) 「数学」、「理科」、「外国語」の必履修科目（「数学Ⅰ」、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」及び「コミュニケーション英語Ⅰ」をいう。以下本通知において同じ。）及び「総合的な学習の時間」については、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校において学校設定科目又は学校設定教科に関する科目（以下「学校設定科目等」という。）として開設された文部科学省告示第1号の表に掲げるとおりに対応する国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目の履修をもって、履修したものとみなすことができること。また、修得した単位数のうち、当該国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校が認める単位数については、「数学」、「理科」、「外国語」の必履修科目及び「総合的な学習の時間」として修得したものとみなすことができること。（第1号関係）
- (2) 国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校の普通科においては、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目を履修する生徒が学校設定科目等について修得した単位数を、合わせて36単位を超えない範囲で当該国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校が定めた全課程の修了を認めるに必要な単位数のうちに加えることができること。（第2号関係）
- (3) 国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校においては、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムを履修し又は履修することが見込まれる生徒に対し、「国語」以外の教科、「総合的な学習の時間」及び「特別活動」について、英語による指導を行うことができること。（第3号関係）

第2 留意事項

- 1 今回の特例措置により、「数学」、「理科」、「外国語」の必履修科目及び「総合的な学習の時間」については、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校において学校設定科目等として開設された文部科学省告示第1号の表に掲げるとおり対応する国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目の履修及び単位の修得をもって、履修及び単位の修得をしたものとみなすことができること。

今回の特例措置の趣旨は、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目を履修する生徒の負担を軽減し、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムと高等学校学習指導要領の双方を無理なく履修できるようにすることであり、このことは、「第1 改正等の概要」の2（1）及び（2）により、実現することができること。このため、参考資料中Ⅱの左欄に掲げる国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目と中欄に掲げる高等学校学習指導要領の科目は、取り扱われている内容に対応関係があるが、「第1 改正等の概要」の2（1）のような措置を行わなくとも、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムと高等学校学習指導要領の双方を無理なく履修できるようにすることは可能であることから、左欄に掲げる国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目を学校設定科目等として開設することとし、当該科目の履修及び単位の修得をもって、中欄に掲げる高等学校学習指導要領の科目の履修及び単位の修得をしたものとみなす必要はないこと。

その他の国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目について、高等学校学習指導要領の科目との対応関係を求める場合は、教育課程特例校制度を活用し、学習指導要領の内容事項が適切に取り扱われた新科目を設置する必要があること。

- 2 「数学」、「理科」、「外国語」の必履修科目及び「総合的な学習の時間」については、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校において学校設定科目等として開設された文部科学省告示第1号の表に掲げるとおり対応する国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目の履修をもって、履修したものとみなすことができるところ、「数学」、「理科」、「外国語」の必履修科目及び「総合的な学習の時間」として修得したものとみなすことができる単位数は、高等学校学習指導要領（平成21年文部科学省告示第34号）第1章第2款の2に規定する標準単位数以下の単位数に限ること。
- 3 英語による指導を行うことができる「国際バカロレア・ディプロマ・プログラムを履修し又は履修することが見込まれる生徒」とは、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムを履修する生徒、第1学年については、当初から国際バカロレア・ディプロマ・プログラムを履修する生徒が決定している認定校においては当該生徒、第1学年の途中において履修する生徒が決定する認定校においては全員の生徒であること。

- 4 S L科目，H L科目の学習に推奨されている時間（S L科目が150時間，H L科目が240時間）を高等学校学習指導要領上の単位数に換算すると，S L科目は最低6単位相当，H L科目は最低9単位相当であるので，認定校において教育課程を編成する際の参考にされたいこと。
- 5 (1) 各大学においては，入学志願者の能力・適性や学習の成果，活動歴等を多角的かつ客観的に評価する観点から，入学者選抜において，学部等の特性も踏まえつつ，国際バカロレアの資格や成績の積極的な活用を図ることが望ましいこと。
- また，各大学の入学者選抜の出願要件等において，「数学」，「理科」，「外国語」の必履修科目及び「総合的な学習の時間」の単位の修得を求めている場合は，今回の特例措置を踏まえ，国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校において学校設定科目等として開設された文部科学省告示第1号の表に掲げるとおり対応する国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目の単位の修得をもって，「数学」，「理科」，「外国語」の必履修科目及び「総合的な学習の時間」の単位の修得をしたものとみなすなどの配慮が望まれること。
- (2) さらに，学校設定科目等として開設された参考資料中Ⅱの左欄に掲げる国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目と中欄に掲げる高等学校学習指導要領の科目は，取り扱われている内容に対応関係があることから，各大学の入学者選抜の出願要件等において，中欄に掲げる科目の単位の修得を求めている場合は，国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校において学校設定科目等として開設された対応する左欄に掲げる科目と中欄に掲げる科目との対応関係について，左欄に掲げる科目の修得単位数と当該出願要件等において定める科目の単位数の関係も踏まえながら，各大学において適切に判断されたいこと。
- 6 指導要録及び調査書の扱いについては，追って御連絡させていただくこと。

第3 施行期日

本施行通知に係る省令及び告示については，公布の日（平成27年8月19日）から施行することとする。

【本件連絡先】

文部科学省初等中等教育局
教育課程課教育課程企画室企画係
電 話：03-5253-4111（代表）
内線2367, 2368

<「第2 留意事項」の5に関するもの
（ただし、科目の対応関係については、
上記の初等中等教育局教育課程
課教育課程企画室企画係が担当）>

文部科学省高等教育局
大学振興課大学入試室
電 話：03-5253-4111（代表）
内線2495

○文部科学省令第二十八号

学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）第五十二条及び第六十八条の規定に基づき、学校教育法施行規則の一部を改正する省令を次のように定める。

平成二十七年八月十九日

文部科学大臣 下村 博文

学校教育法施行規則の一部を改正する省令

学校教育法施行規則（昭和二十二年文部省令第十一号）の一部を次のように改正する。

第八十八条の二を第八十八条の三とし、第八十八条の次に次の一条を加える。

第八十八条の二 スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア・ディプロマ・プログラムを提供する学校として認められた高等学校の教育課程については、この章に定めるもののほか、教育課程の基準の特例として文部科学大臣が別に定めるところによるものとする。

第九十六条第二項中「第八十八条の二」を「第八十八条の三」に改める。

第一百八条第二項中「及び第八十五条」を「、第八十五条」に改め、「第八十六条まで」の下に「及び第八

十八条の二」を加える。

第百十三条第三項、第百三十三条第二項及び第百三十五条第五項中「第八十八条の二」を「第八十八条の三」に改める。

附 則

この省令は、公布の日から施行する。

○文部科学省告示第二百二十七号

学校教育法施行規則（昭和二十二年文部省令第十一号）第八十八条の二（同令第百八条第二項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校における教育課程の基準の特例を次のように定める。

平成二十七年八月十九日

文部科学大臣 下村 博文

国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校における教育課程の基準の特例

学校教育法施行規則第八十八条の二（同令第百八条第二項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア・ディプロマ・プログラムを提供する学校として認められた高等学校及び中等教育学校の後期課程（以下「国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校」という。）において国際バカロレア・ディプロマ・プログラムを円滑に実施することができるよう次のように教育課程の基準の特例を定める。

一 国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校において高等学校学習指導要領（平成二十一年

文部科学省告示第三十四号）第一章第二款の4又は5に規定する学校設定科目又は学校設定教科に

関する科目（以下「学校設定科目等」という。）として開設された国際バカロレア・ディプロマ・

プログラムの科目のうち、次の表の上欄に掲げる科目を履修したときは、同表の下欄に掲げる同章

第三款の1に規定する必履修教科・科目及び総合的な学習の時間（以下「必履修教科・科目等」という。）を履修したものとみなし、当該上欄に掲げる科目について修得した単位数のうち、当該下欄に掲げる必履修教科・科目等の単位数として当該国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校が認める単位数（同章第二款の2に規定する標準単位数以下の単位数に限る。）については、当該必履修教科・科目等として修得したものとみなすことができること。

マセマテイカル・スタディーズ	数学Ⅰ
マセマテイックス	数学Ⅰ
フィジックス	物理基礎
ケミストリー	化学基礎
バイオロジー	生物基礎
ランゲージB	コミュニケーション英語Ⅰ
セオリー・オブ・ナレッジ	総合的な学習の時間

二 国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校の普通科においては、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目を履修する生徒が学校設定科目等について修得した単位数を、合わせて三十六単位を超えない範囲で当該国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校が定めた全課程の修了を認めるに必要な単位数のうちに加えることができること。

三 国際バカロレア・ディプロマ・プログラム認定校においては、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムを履修し又は履修することが見込まれる生徒に対し、国語以外の教科、総合的な学習の時間及び特別活動について、英語による指導を行うことができること。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、公布の日から施行する。

(学校教育法施行規則第八十八条の二の規定に基づき、高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部が履修させることができる授業について定める件の一部改正)

2 学校教育法施行規則第八十八条の二の規定に基づき、高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部が履修させることができる授業について定める件(平成二十七年文部科学省告示第九十二号)の一部を次のように改正する。

件名及び本則中「第八十八条の二」を「第八十八条の三」に改める。

(参考資料)

国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目と高等学校学習指導要領の科目との対応関係について

I	マセマティカル・スタディーズ	数学 I	文部科学省告示により、みなすことが可能。
	マセマティックス	数学 I	
	フィジックス	物理基礎	
	ケミストリー	化学基礎	
	バイオロジー	生物基礎	
	ランゲージB	コミュニケーション英語 I	
	セオリー・オブ・ナレッジ	総合的な学習の時間	
II	マセマティカル・スタディーズ	数学A	対応関係があることについて、文部科学省において確認済み。国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目を履修する生徒の負担を軽減し、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムと高等学校学習指導要領の双方を無理なく履修できるようにすることは、文部科学省告示により、実現することができるため、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目を学校設定科目等として開設することとし、みなす必要はない。
	マセマティックスSL	数学Ⅱ、数学A、数学B	
	マセマティックスHL	数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B	
	フィジックスHL	物理	
	ケミストリーHL	化学	
	バイオロジーHL	生物	
	ランゲージB	コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ、英語会話	
III	その他の国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの科目と高等学校学習指導要領の科目		高等学校学習指導要領の科目との対応関係を求める場合、教育課程特例校制度を活用し、学習指導要領の内容事項が適切に取り扱われた新科目を設置。

認定プロセスにおける必要コストについて

※1 記載内容は平成29年5月1日現在のものであり、今後変更される可能性がある。

※2 平成28年12月財務省告示第366号に定める平成29年度のシンガポールドルのレート(1SGD=80円)で計算。

※3 学校にはさらに実験室整備費や教材購入費等の追加コストが発生する可能性がある。

